

週寫
報眞

情報局編輯

七月廿八日第二十八卷第七十號



是が非でも勝たねばならない
 苛烈、執拗なる空の決戦に
 君よ今こそ空へ征かろ
 君よ今こそ機を造らろ
 勝ち易き戦ひに勝ち
 勝ち難き戦ひにも勝つ
 これが神州日本の眞骨頂だ

空へ・畏くも
 朝香若宮殿下の御垂範

畏くも朝香宮彦王殿下には、
 去る六月十日宇都宮陸軍飛行學校
 に一學生の御資格にて御入校以來
 一ヶ月餘、寸時も惜しませ給うて
 飛行機の操縦術御修得に御精進を
 積ませられてゐますが、今日では
 既に完全に單獨操縦の御技術にま
 て進ませられ、校長を乗せて鮮か
 な離着陸を遊ばされると拜されま
 す

決戦の大空へ、金枝玉葉の尊き
 御身を以て、また陸軍航空總監部
 に佐官としての御要職にあらせら
 れる御年齢にて年少の學生、生徒
 らの間に伍して御自ら操縦桿を御
 手に御操縦の技術を御習得させ給
 ふことは、陸軍として全く異例の
 ことに屬し、殿下を以て嗚矢と仰
 ぎ奉り、また全陸軍將校としても
 殿下に比すべき前例を見ないとい
 ふ誠に畏れ多いことであります。
 殿下の航空決戦に寄せさせ給ふ御
 決心のほど拜察するだに畏き極み
 です



最近におけるレンドバ島、ニ
 ーチョーチア島及びニューギニア
 島方面の空陸海の戦闘が逐日熾烈
 化しつつありますとき、われらは
 航空決戦の重要さに尊き御身を以
 て率先御垂範遊ばされる殿下の御
 後に續いて、南方方面の戦闘をソ
 ロモン群島、ニューギニア方面の
 兩戦闘と切り離した別個のもの
 と考へることなく、大局的なものと
 觀察し、一地一據點の争奪戦に一
 喜一憂することなく、日米總決戦
 へ對處する覺悟を更に、固くし
 ませう

校長を乗せて〇時間にわたる離着陸
 飛行訓練を終へさせられた殿下は少
 しの御休憩も遊ばされず、野外に設
 けた御席につき校長の所見に御耳を
 傾けられ、いち、筆記さへおとり
 になられました

（御寫眞中央が朝香宮殿下）



訂正

訂正理由	撮影ミスの為
訂正箇所	直前の コマ取消 コマ再撮影
訂正年月日	平成 17 年 1 月 24 日
このフィルムは、上記の理由で取消又は再撮影し訂正しました。	
撮影者	佐藤友章  印
受託責任者	古森重隆  印

神奈川県南相模郡中沼210番地
富士写真フイルム株式会社
代表取締役

古森重隆

敵機撃滅に挑む荒鷲島

大東亞戦争日誌



六月二十日、同二十一日の両日に亘つてわが陸軍はポート・ターウィンを攻撃、敵二十七機撃滅、地上の三機撃破、その他飛行場施設を粉砕した。前方に見えるのは敵機墜落、炎上するの激戦跡、炎上するのは敵軍施設、機動を誘つてもなく、ターウィンを遠くから狙つた陸軍は「やあ、やあ」といふのみで何事もなかつたやうだ。



次ぎから次ぎへ進づく間もない敵機の来襲である。わかソロモン最前線〇〇島における海軍部隊の防空監視隊はその都度速かに報告する。敵機何者ぞ、決戦を挑む新鋭海軍の大編隊は長驅敵軍地を襲撃する。猛烈な火の出るやうな航空決戦に機は破損はまた免れない、ソロモン最前線の海軍部隊は休む暇もなくこの苦闘である。

自機三機あり、(一)六月二十二日敵機隊をよめて再度進攻せしむ、敵機隊及び対空火器と交戦するも、(二)六月二十二日早朝ソロモン群島レトバ島方面に輸送船、巡洋艦、駆逐艦等三隻の軍力部隊出現、その一部は同意に上陸せり、(三)帝國海軍航空部隊はこの敵軍に對して、二機以上の攻撃を加へ、敵機三機を撃墜し、(四)同方面帝國海軍部隊は軍用船の補給の下に作戦中であり、(五)帝國海軍航空部隊は六月二十八日及六月二十九日、ポート・ターウィンを襲撃し、(六)六月二十九日、敵機二十一機を撃墜、同大群十五機を地上撃破し、軍事施設二箇所を爆撃せり、我が方損害なし。

●ソロモン群島方面の敵は、六月三十日レトバ島方面の一部部隊に引續き、同接するニューギニア島の奪取を企圖し、その敵機所を上陸し、同島各地において目下戦闘中。

七月

一日 ●帝國海軍航空部隊は七月一日引續きレトバ島方面の敵を攻撃せり。六月三十日及び七月一日の報告戦果左の如し。

●敵軍艦隊、一隻撃沈、同一隻撃破、大型軍艦四隻撃沈、駆逐艦一隻撃沈、同一隻撃破、輸送船三隻撃沈、同一隻撃破、飛行機七十七機以上撃破。

我が方飛行機三十一機未だ歸還せず。

●二十一日 ●帝國陸軍航空部隊は六月二十日及び二十一日ニューギニア島ワウ附近敵飛行場を攻撃、次ぎの戦果を収めたり。(一)六月二十日ワウにおいて地上にありし敵飛行機三機を撃破す。我が損害なし。(二)六月二十一日サラモア附近上空において敵機二十機と遭遇、その八機を撃墜、三機に損害を與へたり。我が方一機未だ歸還せず。

●二十三日 ●帝國陸軍航空部隊は六月二十日及び二十一日ニューギニア島ワウ附近敵飛行場を攻撃、次ぎの戦果を収めたり。(一)六月二十日ワウにおいて地上にありし敵飛行機三機を撃破す。我が損害なし。(二)六月二十一日サラモア附近上空において敵機二十機と遭遇、その八機を撃墜、三機に損害を與へたり。我が方一機未だ歸還せず。

欣然と子等は羽搏く

欣然と子等は羽搏く... 決戦の空にゆけよと、ひたすらに母は祈る

ひたすらに母は祈る 決戦の空にゆけよと、ひたすらに母は祈る。決戦の空にゆけよと、ひたすらに母は祈る。



お父さんの伴奏に、弓もつ手にも力をこめて、伊達愛氏と長君、空の決戦場

勝利の曲は 空の決戦場

勝利の曲は 空の決戦場... 前よと大戦のときより危しと

この決戦場は... ひたすらに母は祈る... 決戦の空にゆけよと

ひたすらに母は祈る... 決戦の空にゆけよと

ひたすらに母は祈る... 決戦の空にゆけよと

ひたすらに母は祈る... 決戦の空にゆけよと

ひたすらに母は祈る... 決戦の空にゆけよと

ひたすらに母は祈る... 決戦の空にゆけよと

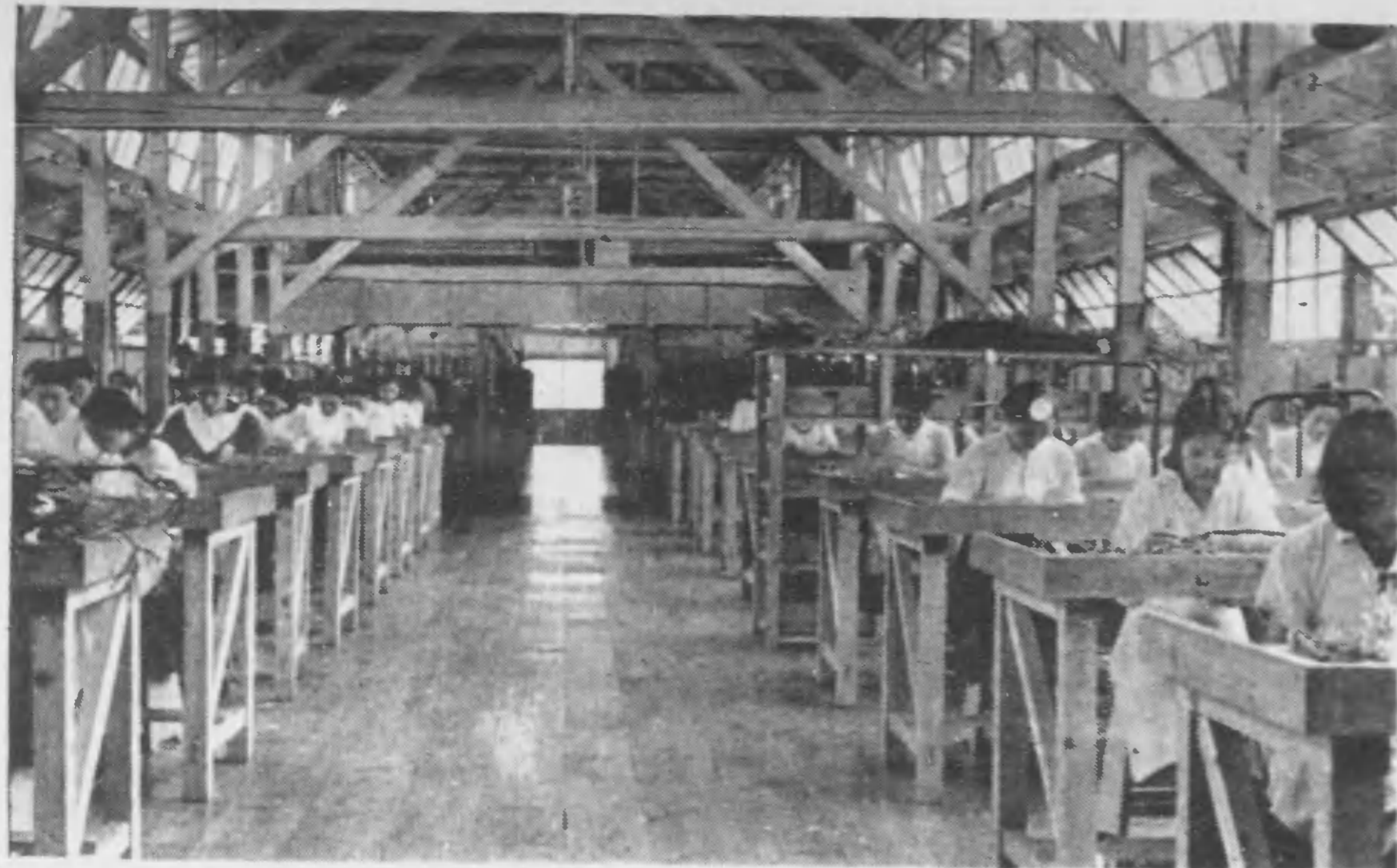
ひたすらに母は祈る... 決戦の空にゆけよと

勝利の曲は 空の決戦場... 前よと大戦のときより危しと

勝利の曲は 空の決戦場... 前よと大戦のときより危しと

ひたすらに母は祈る... 決戦の空にゆけよと

ひたすらに母は祈る... 決戦の空にゆけよと



四十年の製糸工場としての歴史を思ひ切つてかたがたり捨て、近代戦では缺くことのできない通信機工場へ。これは、人物、資本のすべてをあげて直接の戦力増強に結集するため、昨年四月、時局的轉換を率先實踐した長野縣下の信濃製糸(株)工場、現富士通信機製造株式(株)工場に工場を移すことである。

○工場が轉換した昨年四月、製糸統制による操業の困難は身近か迫つてゐたが、當時はまだ徹底した轉換の心構へは業界に浸透してゐなかつた。そこを先導するもの苦悶も多かつたわけだが、○工場は全く上下一體となつてこれを克服した。古い機械の撤去や新しい設備の備へ付けにも全員が汗をまみれてあつた。そして四百名に近い女子工員も、殆んど全部新しい工場に渡つたのである。

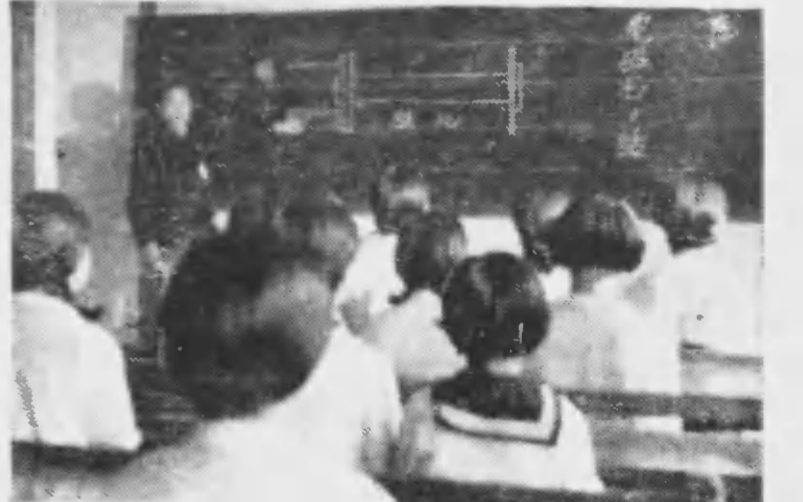
女子工員の技術習得のためには、早速、昨年四月から三期に分けて、一回ずつ有名位づ、本社工場に派遣し、一ヶ月から二ヶ月位の懸命な訓練が積まれた。轉換後僅かに一年、現在各作業の筆率は、本社工場と比べて決して遜色がないといはれる。緻密な製糸作業で永年鍛へられた指先の器用さ、工場の、精密な機械を取扱ふ新しい作業の習得に少からず役立つことも知れない。だが、短期間にかゝる成果をあげた最大の原因は、轉換にあつた幹部以下全社員が新しい職場に挺身し、ことごとくあつた相扶け動員であつたとともに、あくまで新しい職場で御奉公しようといふ女子工員の積極的意志があらゆる困難に打ち勝つたことである。



の場工用轉 々上は績成

社合式株造製機信通土富
場工○○
語文月報 影撮

製糸工場を去るに先立ち、この工場に在りては、昔の製糸工場と異なり、その機械、設備、環境、衛生、等に著しい進歩が認められる。この工場は、戦時体制の轉換を率先實踐した長野縣下の信濃製糸(株)工場、現富士通信機製造株式(株)工場に工場を移すことである。



この工場は、戦時体制の轉換を率先實踐した長野縣下の信濃製糸(株)工場、現富士通信機製造株式(株)工場に工場を移すことである。



この工場は、戦時体制の轉換を率先實踐した長野縣下の信濃製糸(株)工場、現富士通信機製造株式(株)工場に工場を移すことである。



閑な農業



この村は戦下の日本農業の中心地である。農村工場と呼ばれる。食糧増産と軍需資材の増産に農工一歩の大奮闘を遂げ、太平洋の生産戦に奮闘中である。

新潟県新潟市から約一里半、日本海に面した牛久保村、を流村がその一つだ。昭和十二年二月頃、理研株式会社と株式会社がこの流村を中心として、農業の土間に一歩の機械を導入し、田圃が草のすたれた農閑期の村人を集めて、ピストンリングをみることも簡単な操作をほしたのでも、今日では時局の要請により依然状況を変え、流村では四ヶ所からの共同作業場があり、一ヶ所十人から十五人位の主婦や姉さん達が働き、また個人作業場では親子夫婦が種よく軍需品の増産をすこいぶ家庭に達した。この工場の特徴は、時間的に工場並みの不可能な農閑の人々が仕事の合間に働くといふことである。この村は牛久保半島に加えて半島村まで、今や農閑の言葉は打倒され、働き手としての新女性の出陣を奨励し、食糧とともに兵器造りにも献身してゐるのである。

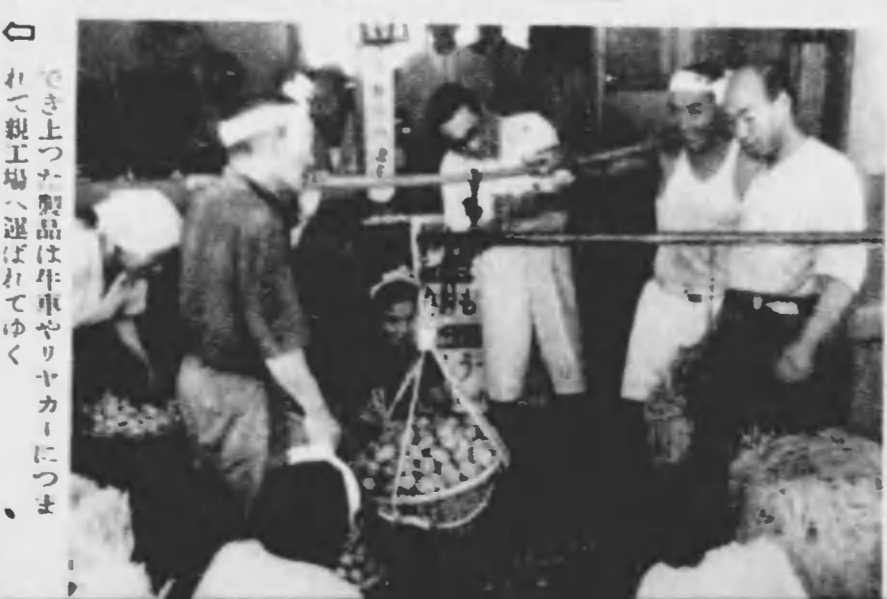
工一如

新潟県荒濱村

やがて飛行機の、戦車の、自動車、重要部品となるピストンリングは、農工の手でとらし、と仕上げられてゆく。機械の聲音にあやされ、か背の坊もおとなしい。

さき坊や、たんとおあがり、休み時間にはお母さんにかへつて、遊ばたはわが家のやうに和やかだ。

農村としての使命は何といつても食糧の増産だ。そして供出だ。今日は馬鈴薯の供出日、村役場の前には続々と村の収穫が運ばれてくる。農工を一手に引受けてこの村は全能力をあげての戦ひに懸命だ。



でき上った製品は牛車やリヤカーにつまわって親工場へ運ばれてゆく。

汗に結ぶ兵學一如

高動勞報國隊の陸軍〇〇〇にけおる動勞協力



われら若き者へきるものは何もない。山を崩し谷を埋め第... 陸軍... 高動勞報國隊の陸軍〇〇〇にけおる動勞協力



「老いも若きもすべて決戦場へ」
安閑と學に勤しむばかりが學徒の本分ではない。同い年の若人達は、炎暑の熱帯に、吹雪く北邊に銃を把り、また國內の生産戦線に銃を把つて闘つてゐる。われら學徒として夏休みどころではない、夏休みを返還して戦力増強に備から、と大學、高等専門學校の學徒が奮起し、陸軍の造兵廠、被服廠、兵器補給廠、或ひは重要産業の職場で七月一日から敢闘してゐる。學徒の延數、數十方名を超える勞働の成果も元より大切であらうが、それにも増して大事なことは、勤勞の汗によつて學徒が心身を鍛へられることだ。馬車馬のやうにたゞ働くのでなく、お國のために働くのだと學徒が身を以て感じ取つた時、もはや勤勞奉仕ではない。それが勤勞を通しての兵學一如の教育なのだ。



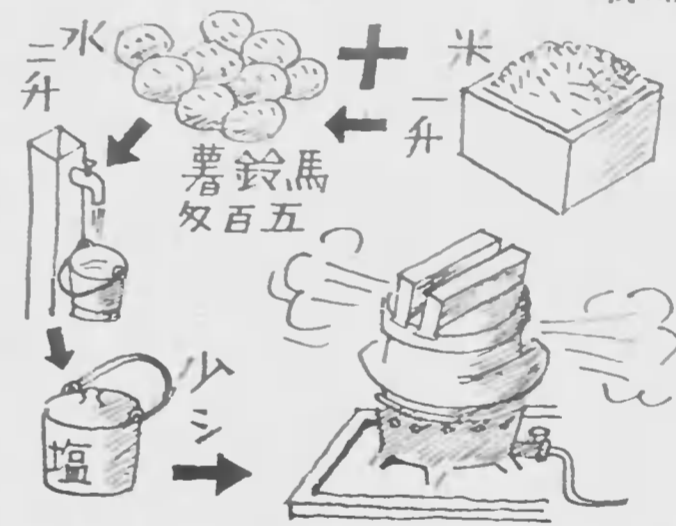
八月の常会



勝つためにはどんなことにも耐へることが必要です。と同時に、耐へるためにはあらゆる努力をこらひ工夫をこらし、國民が全能全力を盡して決戦生活を實踐してゆくことが必要です。常会はそのための眞剣な議場であり、研究室でもあるのです。従つて、こゝで論議され、こゝで決定したことは直ぐに實行にうつさねば何にもなりません。さあ、今月もまた重大な徹底事項が澤山あります。皆さんの工夫創意を加へて、どんなことがあつても徹底的に實踐してゆきませう。

食糧を國內で賄ふために「決戦食生活」を實行しよう

- 一 混食で節米だ
これから混食用として甘藷、馬鈴薯、大豆が米の通帳で米と差引で配給されることになりすが、今月は馬鈴薯と大豆です。混炊の一例を申しますと、米一升について馬鈴薯五百匁、水二升の割合で炊き、少し塩を入れたと、よけい美味しく食べられます。
- 二 地方では郷土食の實行で
食べてゐた郷土の



日本は海國だ。そして戦場もまた海だ。牡丁は勿論、國民の一人々々が泳げるやうに努めませう。

この暑熱を道場として——健
一 この夏は牡丁の特訓訓練が行はれます。牡丁諸君はもとよりのこと、國民皆が泳げるやうに近郊の海や川、



沼澤を利用して水練で鍛へよう
二 登山や徒歩旅行やその他の運動もよいが、何といつても勝つための生活といふ考へに立つて、この夏は工場や農村等への勤務本仕や食糧増産の空地開墾、蔬菜栽培等の勤務即鍛錬で心身を鍛へよう

一 草取りを手まめに行ひ、時々まはりの上を耕して軟かくし、乾きすぎぬやう時々水をやること。また、下肥かドブ水その他の肥料を根元から離して施すこと
二 風に倒されぬやう草ののび工合に應じて支柱を立て、もし風に倒されたらすぐ起して支柱で支へること
三 航空決戦に勝つために必要な潤滑油をとるために立派な收穫を上げませう

★表紙
「われら戦後、空に死ななう」これが決戦以後の合言葉だ。こゝに、學生航空隊羽田飛行訓練所に入所した山崎部長の遺児保之君(藤澤高工卒)は、父の仇を空に討たんとし、一層訓練に精進してゐる。一ヶ月で練習機に搭乗、操縦の指導を受けるやうになつた同君の意氣は始と燃えてゐる。

おらが闘組つ自慢のものは

〇 荒鷲 養威 杉 匠 夫
「わしの闘組は十戸ちやが、十五人の荒鷲を出してみせるぞ。もう既に三人は在陣中、この大鷲生は志願済みや。闘組は毎日この通り」



防火用水増強策

小泉 紫郎
お風呂を改良することにした。こゝに乳母車か三輪車の車輪をつけて、ときどき移動集中訓練をやる。

共同飼育所

南 義郎
増産運動に呼應して兎と鶏のお家を造つた。連日一時間早起きの世話役をはじめから身帯の調子は上々。新しい卵の割さうびも出る。軍吏としてお役に立つ日も増えたい。

映本種 板覽回の町の山

や、るまが板覽回とんやもてつたに町の山編がらおたなる器も早五りはま一は板覽回がらお。かることあるあ。ししてんもいらえ。らあ。

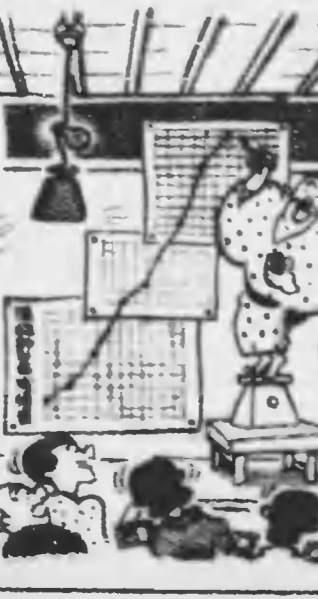


空の教室

森 熊 猛
こゝん所がわらの闘組の空の教室です。今日は敵機列別の訓練。「これはP」「ボーイングP17です」これこの通り



隣組貯蓄成績表
秋 玲二
「皆さん、この調子でや来月は天井にときますよ、ハッハッハ」おらが組長のえびす調を演習下さい。



誌日画漫争戦亞東大 介進 川石



年周六變事刑女く輝に果敢



書損大敵で戦道内の敵機潜水が我



るさ湯掃敵機の島南南



す出り狩を1行機女・艦隊米



軍備を兵米の備上備ウソナ



減減に所編敵の備上馬アリチン



嵐の激感く陣に出現へ迎を理歴



滿鐵運輸局

承德の喇嘛廟

大陸旅行のお問合せは
 滿鐵鮮滿支案内所へ

東京 日比谷公園前
 大阪 堺区中區大橋前
 名古屋 大須
 支店 門

長崎 長門新橋
 福岡 博多
 九州 北九州
 支店 門

支店 門

内閣印刷局印刷發行

本誌を回覧に
 本誌を、隣組や職場
 などで回覧する等、出
 来るだけ有効に御利
 用下さい。
前線慰問にも
 またお読みになつた
 ら本誌を前線慰問に
 送りませう。送料は
 内地と同様で封封あ
 るは開封にして第
 一報と明記すれば
 一部一銭です。

所 達 中	價 定
全國各地官報 販賣所	▲特大號の場合 其の都度御届込 金より差額を申 付けます。
書店・驛賣店 新聞販賣店 寫眞材料店	一部十錢 (送料一錢) 外販送は依 る地域送は依 る。一部十九錢

昭和十八年七月
 廿八日 印刷發行
 編輯者
 東京 印刷局
 水田町一ノノ
 印刷局
 東京 印刷局
 東京 印刷局

寫眞週報
 (禁轉載)

(本報週報) A4格紙定規はさき大の書本